

H.27  
(2015年)

## 三月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

『老・病・死』の苦悩は、自力では解決できない

釈迦族の王様だった釈尊（お釈迦様）は、老・病・死の苦悩を消すため、29歳で城を出（出家して）6年間。苦行されたがダメでした。菩提樹の下に座り、35歳で『苦悩の原因は、この世に生まれたからだ』との『縁起（因果）の法』に目覚め（悟）られました。法とは法則（しんり）で、大昔から何時（いつ）でも何処（どこ）にでも働（はたら）いています。が、釈尊の発見された法則は自然の法則ではなく『人間が苦悩を乗り越え・極めて楽（極楽）な心を得るための法則』です。仏教の目的は、『釈尊と同様の覚りに達し・心穏やかで楽な気持ちになれる』ことです。

佛教用語で人間とは『人と人との間（ひとひとのあいだ）で、共に助け合つて生きる存在（そんざい）』の意味です。私は今まで無数（むすう）の人々に助けられ・自然の恵みの御陰（おかげ）で『生かされてきた』と気づけば、自己（じこ）中心（ちゅうしん）の考え方（かた）が変わります。また、いつ死ぬのか私には分からず、生きて行くには『人間（じんげん）を超えた力が必要（ひつよう）だ』と目覚めさせるのが佛教（ぶつきょう）です。

主な参考資料

(1) 青山勝海(著)『やさしい真宗講座－み教えに生きる－』、本願寺出版社、P.15～21(2012年)。

(2) 中川皓三郎(著)『ほんとうに生きるということ』、真宗文庫(東本願寺出版部)、P.15～22(2012年)。

(3) 友久久雄(著)『65歳からの佛教－おとのための浄土真宗入門－』、本願寺出版社、P.259(2014年)。